

# 広報 おぎかわ

2021. 3. 15 第190号  
 発行者 荻川コミ協  
 発行人 朝比奈 富夫  
 電話 (24) 5776

荻川の人口	世帯数	7,041戸
	人口	18,410人 (前年同日比-73人)
	男性	8,923人
	女性	9,487人
		(2021年1月末日現在)

## 荻川の女性除雪オペレーター

私は平成十八年から荻川地区の某調剤薬局で医療事務・栄養士登録販売者として勤務しています。東区から通勤しておりますが、荻川地区の方はとても優しく温かく接して下さるので荻川地区で仕事ができる事をうれしく思っております。

特殊車両免許を取るきっかけは三年前の大雪の時です。早朝からスタッフ総出で除雪作業をしていましたが、患者さんが来局される時間までに除雪が間に合わず、患者さんにご迷惑をかけてしまったり、スタッフも除雪で疲れ切ってしまう業務に支障をきたしてしまつては困ると思つたことがきっかけです。また以前から重機を取り扱うことにも興味がありました。好奇心旺盛なので映画鑑賞や料理、バトミントンなど多趣味ですが資格マニアでもあり、現在スキルアップのために社会保険労務士の資格習得のために奮闘しております。今後は仕事にも役立てることができるよう漢方養成指導士の取得にも挑戦してみたいと思つています。



作者 北村 美江  
 寄贈者 西潟 範子

本年1月に、西潟範子様より北村美江様の絵画を受贈しました。本館2階第一研修室の手前に展示しています。来館の際はご鑑賞ください。(コミ協 事務局)

## コミセン裏の駐車場に感謝

一月の大雪で各町内は除雪パニックになりました。冬期間はコミセン裏の駐車場は雪捨て場に代わります。担当除雪業者は近隣の除雪した雪を持ち込みます。コミセン近隣の一部の人がしか利用できませんが本場に大助かりでした。



## 分団管内無火災1500日を達成することができました

日頃より、消防団活動にご理解、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。新潟市消防団秋葉方面隊新津第4分団長を務めさせていただいております、市川明史と申します。

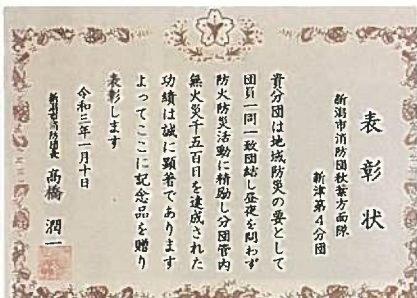
さて、この度、平成28年2月16日から分団管内無火災1500日を達成することができました。これも一重に住民の皆様の防災意識の強さと普段の心がけの賜物と団一同感謝しており、この場をお借りして感謝申し上げます。

新潟市消防団秋葉方面隊新津第4分団は、市之瀬、覚路津、三枚潟、長割地域を3班体制、33名で活動しております。

お盆や年末年始などの火災予防運動に伴う防火広報の実施、また、覚路津地域においては、昭和45年から火災予防運動に伴う防火広報とは別に、月に3回、自主的に防火広報を続けてきた成果の賜物だと思っております。

各団員は仕事をしながら消防団活動を行っており、各々が出来る範囲で出来ることをしっかりと行い、今後も「自分達の地域は自分たちで守る」という消防団精神を持ち、地域の防災リーダーとして活動をしてまいります。

地域住民の皆様におかれましても、大切な家族や財産を守るため、寝たばこはしない、電気配線の取り扱い、コンロに火をつけたまま離れないなどの火災の危険性があるポイントについて予防策をとっていただき、さらに無火災が続きますことをお願いいたしますとともに、今後とも変わらぬ消防団活動へのご理解とご支援をお願いいたします。



高見劉薫則(タカミリュウマサノリ)さん  
東関部屋を令和三年一月場所所引退

秋葉区覚路津出身昭和61年6月1日生  
◎初土俵↓平成16年大阪場所  
在籍17年

◎生涯成績↓318勝310敗 99場所  
◎最高位↓幕下53枚目

入門のきっかけは先々代が高見山の現役時代からご縁のある新潟の知己の紹介。『相撲界はそんなに甘い世界ではない』という、その方の率直な言葉にむしろ心を動かされたそうです。先々代が一度新潟の実家を訪れた時、本人はまだ迷っていたのですが、「もう一度来てくれたら、決める」と言ったら、本当に先々代が再びやって来られて入門を決意。その折、両親とわずかな知り合いで会食をしました。後日、先々代から「今までの入門スカウトで最も人数が少なかった会食」だったといわれました。高校時代はラグビーに打ち込みました。おかげで人とぶつかることへの恐怖心はなかったと言いますが、やはり相撲の体の使い方、力の伝え方は全く違っていました。

入門1年後に高校を訪れた折、全日本代表レベルの高校ラグーマンのタックルをバック越しに受けた時、一歩も動じない自分に「相撲界で鍛えた二年」の凄まじさを感じました。相撲界での一番の思い出は先代親方が現役潮丸時代、初めてのおつきり稽古。押しも押しも押し切れず、腰が高いと転がされる。その繰り返しに「死ぬのか」と思ったほどの衝撃が。同時に弟子に対する先代の愛情を感じることができたと振り返ります。東関部屋在籍の間、故郷の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

この春、新たに旅立たれます皆様におかれましては、未知の世界の可能性に向けて自信を持って焦らず進んで下さい。



### 雪の思い出

今年の大雪(秋葉区244センチ)除雪をしながら昔の事を思い出しました。

上越の山の生生まれで豪雪地帯、よく降りました。家は農家のかやぶき屋根で天井の煙出しからアラルなんかしようちゅう入って来ました。寒く暗く戸の開け閉めが大変でした。母屋、蔵、納戸の雪下ろし早朝の坎んじきでの道づくりなど大変でしたが、裏山でのスキーや雪遊び等楽しい事もありました。



昭和38年豪雪の時は、国鉄に入り、長岡で勤務していた電気機関車の運転手をしていました。当日正午発の八両編成の高崎行きで待機していましたが、午後四時になって豪雪の為打ち切りとなりました。機関車だけで入庫する時10m程走って脱線し動けなくなりしました。雪に対する人間の力のなさに恐怖心を抱きました。昭和50年代、初めて東海道新幹線に乗務しました。東京から新大阪間ですが名古屋を停車すると、かの有名な関ヶ原を通過します。ここは雪が降る地域です。スプリングラーが無く路線に雪が積もります。速度を210kmから110kmに徐行しなければなりません。東京の司令員が走行中の降雪情報を聞いてきます。新潟の運転士は「大丈夫、大した事は無い」と返答しますが大阪の運転士は「ぎょうさん降ってます、アキマヘン」と困ったとの話を思い出しました。雪は自然の贈り物と受け止めお付き合いたいと思っています。

中野五丁目 石野 誠

### 見えないものに宿る力 多様性を真剣に考える オーストラリアの人々から 学んだ事

「私は法的にこの土地を先住民に属するものと認め、この地球の一部を貴方の手に置く事で、その権利を返還した証とします。」かつてのオーストラリアの首相である、ゴフホイットラムは右手を丸めて空気を掴み、ある先住民にそう言うて見えない空気を手渡した。※※「先住民に土地を返す※※」

今、私たちは目に見えないものに怯えている。新卒で入社した会社で、まず始めに学んだ事は「現代は人工知能によって全てが可視化される第4次産業革命の真つただ中である」という事だ。しかし、目に見えないものが我々の想像力を掻き立て、人生を変えるほど人を感動させる体験を作り出すのだと思う。

私は19歳の時にオーストラリア、メルボルンの大学に通うために渡航した。一番印象に残っている事は、クラスメイトの活発さだ。彼らは最も多様性のある都市に生まれた誇りを持っており、それを脅かすような社会や政治には真つ向勝負する。先住民の平等を求める抗議運動に参加するため、授業を短縮する事もあった。刺激的な大学生活の中で、「目に見えている現実だけを追いかけていては、夢の実現もならない」という事を、私は無意識に心の中で大切に育てていたと思う。

東京の外資系企業での研修を終えた今、私は新たな世界に飛び込もうとしている。成果や能力が可視化され、理想と現実の差に肩を落とす日々だが、常に変わらないものが見えないものに宿る自分を変える力だ。リモートでしか会った事のない同期からの思い、そしてオーストラリアでの体験こそが私の原動力となり、現状を変えるのだと信じている。



中野五丁目 中村 有理沙

### おぎかわ生涯学習講座 後期第4回目開催

新年明け、1月17日(日)に、令和2年度後期第4回目講座を開催しました。

年初の、記録的大雪後の、新型コロナウイルス感染症が、未だ収束気配の見えない時期でしたが、感染防止策のもと、37名の方々が受講されました。



今回は、會津八一記念館事務局長、高岡信也氏より、「會津八一の遊び心と手紙と茶碗と半泥子」と題し、講義いただきました。

會津八一と、実業家であり、多趣味人でもあった、三重県津出身の、川喜田半泥子との書簡のやり取りを通しての交流の様子を、軽妙洒落な語り口でお話いただき、興味深々、笑い有りの、八二に対する理解を、一層深める事の出来た、楽しい90分となりました。(スタッフH.F)

### 楽しいスポーツ

小さいころから野球が好きで中学校の野球部では左腕だったこともあり投手をしていました。が、当時は医学的知見等なく成長期の無理がたり肘を壊してしまいました。今でも遠投はできません。野球は諦めざるを得なかったけれど、もともとスポーツが好きだったので高校に入り陸上短距離競技を始めました。六十年を経た現在も競技を続けています。陸上競技は野球と異なり個人競技が中心で練習も一人で出来ません。それがここまで続けてこられた二因かもしれません。

今までマスターズをはじめ幾多の大会を経験してきました。競技とは競い合いです。競い合うことでエネルギーが沸き目標も出来ます。また大会で沢山の友達ができました。そういう意味でスポーツは楽しいものです。これからも楽しい競技人生を続けていこうと思っています。

車場四丁目 阿部 厚

### 火災体験記

平成22年7月に小須戸地内で発生した火災について紹介させて頂きます。

私も消防に勤務し退職するまでに300回以上の火災に出動しましたが、これほど大きな火災を経験するのは初めてでした。

この火災では、33棟の建物が焼損しました。出動した車両は、ポンプ車等が32台、消防団の可搬ポンプが20台出動し、出動人員は、消防職員と消防団員合わせて283名が消火活動に従事しました。

火災現場へ到着した際、火元建物付近から黒煙と炎がゴーという音と共にもの凄く勢いで吹き上がっており、付近帯が非常に暑かったことを記憶しています。特に印象に残っているのが、火元建物の南側に幅員が4メートルの道路がありましたが、黒煙と炎が凄く消火活動中はまったく分かつたことが初めて分かつたことや火元建物の東側に歩道を含め幅員が10メートル以上の道路がありました。道路を隔てた反対側の建物の木造部分が、炎が接してないのに燃え上がっていたことなどです。

そして、これだけの火災でしたので消防力は最初劣勢でいくら水をかけても、火の勢が衰えることはありませんでしたが、消防職員と消防団員が協力し消火活動を行った結果、出火から約5時間半以上かかりましたが、火災を消火することができました。

火災はとても恐ろしいものです。一生かけて築き上げた財産を一瞬で燃え尽くしてしまいますし、尊い命も奪ってしまうこともあります。

まだまだ暖房器具を使用する機会があり、それに伴い火災の発生する割合も多くなりますので、火の元や火の取り扱いには十分注意し、火災予防に努めて頂きたいと思っています。

(H.I)



### 市之瀬幼稚園の豆まき

2月2日(火)市之瀬幼稚園で節分の豆まきが行われました。

九時から年長さんの豆炒りで始まり、体育館では鬼の歌・鬼のダンス・年長さんのクイズを楽しんだ後、太田園長先生の節分のお話を聞き、豆まきの始まりです。最初はステージに飾った各々のお面にぶつけ、その後には赤鬼が登場し全員で鬼退治をしました。

豆まきの後は、お豆は食べないで豆拾いし窓の外へ「鬼はー外」

今年の赤鬼さんはコミセン総務部員の横山さんでした。赤鬼さん、苦勞様でした。



### 春の若人へ

大雪に見舞われた冬も終わり、徐々に春の訪れを感じられる季節になってきました。新たな旅立ち、別れ、出会いの季節でもあるこの春に新しい環境に身を置く方も多くいらっしゃると思います。

私はこの荻川で15年ほど農業に携わってきましたが、農業の姿も当初とは、がらりと変わってきました。無人のトラクターが田を耕し、手を放しても真つすぐに進む田植え機が綺麗に苗を植えていきます。ドローンが空中を飛び防除を行い、田んぼの水も携帯端末から指先ひとつで管理が可能です。衛星からの画像で稲の生育を診断し追肥の判断、稲刈りの適期の判断もサポートしてくれます。私が始めた頃には無かった技術が開発され、そして実際に活用されている現場に身を置いている者としても、変化のスピードの速さには驚かされるばかりです。

しかし変わらない事もあります。種を蒔き、芽が出て、緑の葉が伸び、稔る。作業は人の手から機械へと移り変わっても稲は稲であり続けています。

環境は変われど、将来の変化は見通せなくとも、変わらないものもきつとあるはずで。不易流行。変化こそ常態ではありませんが、流れて行くものの中にも流れて行かないものもあるはずで。この春に荻川を離れる方もいらっしゃると思いますが、この荻川地域が温かい「ふるさと」として変わらずに皆さんの心の中に在って欲しいと願っています。

こがね町 石本



### 西公園休憩場所

#### 『パーゴラ』の工期延長

西公園の藤棚を撤去した後に設置する休憩場所「パーゴラ」の完成日が延長されました。当初令和3年3月15日でしたが、大雪積雪により工事の工程に影響が出た為です。完成予定は令和3年3月25日です。

### 第28回某冠婚葬祭主催 県民アマチュア絵画展入選 卓上の譜

2003年油彩絵画をはじめ。

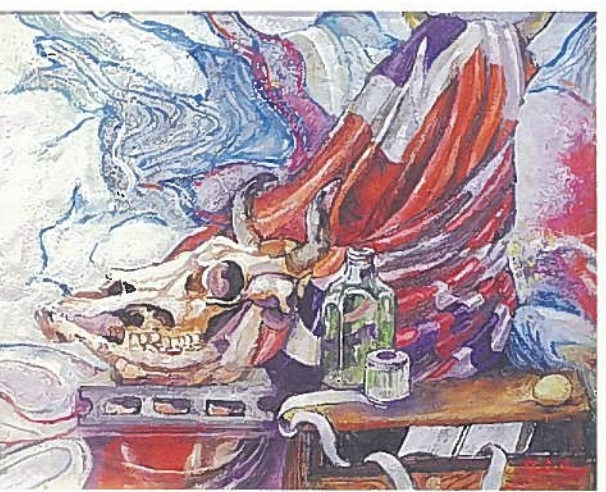
迷いながら「卓上の譜」という題にしました。意味は物を置く台にある牛の顔骨、旗など他の物が調和し合せて置かれているということ。深い意味はありません。いつものことながらバックの様子をどうするかでした。しかたなく筆の動くままに塗りたくってしまいました。やりすぎた感があります。

(絵の大きさF30 九〇×七二七)

絵を始めたきっかけは、退職後何かやることを探していました。それが絵画でした。一時期絵の教室に通い絵のノウハウを勉強しましたが、うまく身に付きませんでした。その後は自己流でレベルの低い絵ばかりかいています。絵はあくまで趣味です。年齢のことを考えるとどこまでやれるかわかりませんが、ゆつくり進めたいと思います。

絵を描くタイミングは、比較的時間の余った午前十一時から十二時過ぎあたりです。毎日ではありません。時々思い出したように描きます。

中野五丁目 出山 修



## 信越線下の洞門を見直そう

日頃何気なく通っている車場地区の洞門は当時大切な用水堀を保護する為に作られた。まだコンクリートでなくアーチ形にレンガ積みで出来ている。

明暦年間に川口より取り入れた用水は結、荻島を経由し、田島をうるおし、一般家庭でも野菜を洗ったり、洗濯をしたり又水がきれいであつた事から風呂の水にも使われた。

戦後耕地が整備され用排水が完備し、又家庭も水道を引く事により用水堀は役目を終えた。のち埋め立てられ立派な産業道路となり朝夕多くの車が通過して洞門を利用している。この洞門は車一台しか通れないがお互いに譲り合い事故も起こっていない。特別の歴史的な建造物である洞門を大切に見守ってゆきたい。

(夏井記)



信越本線 車場川橋梁 ねじりまんぼ。  
1897年(明治30年)11月20日  
場所：新潟県新潟市秋葉区車場1丁目11  
信越本線 亀田駅-荻川駅間。  
2016年06月18日探索。



信越本線 車場川橋梁 ねじりまんぼ。  
西側坑口を見ると煉瓦が四重に積み重ねているのが解る。



信越本線 車場川橋梁 ねじりまんぼ。  
下部は石造りになっていて、波形で接合されている珍しいねじりまんぼ。  
傾斜角は75度。

信越本線 車場川橋梁の位置→



## お知らせ・情報・会員募集コーナー

### あいさつで心の通う荻川地区に

市之瀬幼稚園長 太田伸男

新潟県教育委員会『家庭教育支援ガイドブック』に、あいさつができるようになる順序があり、次の様に書かれています。

- 1.まずは家庭の間で、あいさつが自然にできるようにしましょう
- 2.地域では、親があいさつのお手本を示しましょう
- 3.お手本を示しながら、子どもと一緒にあいさつができたときは、しっかりほめてあげましょう
- 4.子どもが一人でもあいさつできるようになります

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」という長岡市出身の連合艦隊司令長官だった山本五十六の名言があります。

「やってみせる、ほめてやる」は2と3です。「言って聞かせる」はどうすればよいのでしょうか。あいさつで心がつながることを教えてあげることだと思います。「させてみる」は、1の中で「おはよう。おやすみ。ありがとう。ごめんなさい。」などをきちんとと言えるようにすることとおもいます。

地域の方々とのあいさつで、防犯の効果も高まります。地域の皆様からも、顔見知りの子もたちにあいさつをしていただけたらと思います。明るいあいさつがこだまする、心の通う荻川地区になることを願っています。



### 「荻川歩こう会」(令和3年度) 行事予定

実施日	曜日	行き先	コメント
4月18日	第3日曜日	菩提寺山(小須戸)	今年初めて(半日コース)
5月9日	第2日曜日	高立山(五泉市)	頂上の景観良い(半日コース)
6月20日	第3日曜日	護摩堂山(田上町)	あじさいの名所(半日コース)
7月11日	第2日曜日	小阿賀野川散策	ウォーキングコース(半日コース)
9月27日	第4日曜日	安達太良山	福島県、紅葉が見られるかも
10月24日	第4日曜日	上越市の名所めぐり	上杉謙信のゆかりの地散策
11月7日	第1日曜日	雷山(五泉市)	晩秋の紅葉楽しめるかも

\*現在、「新型コロナウイルス」が蔓延していますので、各月の行事はコロナの状況を考慮しながら判断します。



### 硯心会 新規会員募集 初心者大歓迎(令和3年4月)

・習字の基本、書道創作の楽しさなど一緒に習いませんか。

- 場 所 荻川コミュニティセンターにて
- 日 時 毎月3回 水曜日 午後1時から3時まで
- 会 費 月額3,000円(他会報、等)



### 荻川交番だより 秋葉区内で死亡事故が発生しました。

発生日時：1月12日午前8時35分ころ  
発生場所：秋葉1丁目地内 新潟市道上  
状 況：雪道でスタックした普通乗用車が後退し、後方にいた70代男性歩行者がひかれて亡くなりました。  
ドライバーや歩行者など全ての方が「安全は全てに優先する」ことを肝に銘じて、秋葉区内から悲惨な交通事故が発生しないように、一人一人が気をつけましょう。

令和3年1月31日現在特殊詐欺被害発生状況  
新潟県内 8件 2,530万円 秋葉署管内 0件  
令和3年2月9日末現在死亡交通事故発生状況  
新潟県内 4名(-2) 秋葉署管内 1名(+1)

### 編集後記

「広報おぎかわ」190号で令和2年度も最終号です。

今年度は新型コロナウイルス感染症に翻弄され、1月の3連休は8年ぶりの大雪にも見舞われ自然に起きることは何もできないと...あらためて実感しました。

立春も過ぎ少しづつ春への足音が聞こえてくる今日この頃、もうすぐ令和3年度です。

昨年コロナ禍で開催できなかった荻川地区の各イベントで住民の皆様と再会し、コミュニティセンターが取れることを願うばかりです。

今後とも、総務・広報部の活動にご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

(M・M記)